令和８年度　朝日町立西五百川小学校だより

ポプラ

第６号 令和８年９月１６日　　校長 奈良﨑芳晴

一学期終業式　子供の「ふりかえり」

４月８日から始まった今年度の学校生活、７月２８日に一学期の終業式を迎えました。終業式は学校生活における１つの節目です。まず、西五百川小学校で生活する一人一人が無事にこの日を迎えられたことを、何より嬉しく思います。

一学期の登校日数は７５日でした。一年間の登校日数が２０４日ですから、今年度の学校生活３分の１の地点にたどり着いたということになります。

終業式では、２年生のＡＳさんと４年生のＵＭさんが、全校生の前で１学期のふりかえりを述べました。



ＡＳさんは、くり上がりやくり下がりのあるたし算ひき算や、相撲、水泳でのビート板キックをがんばったこと、職員室や音楽室などを詳しく調べ学校探検の時に１年生にやさしく教えられたことをふりかえりました。また、夏休みに最上川でコイを釣りたいこと、2学期は計算に毎日取り組みたいとも述べました。



ＵＭさんは、息が苦しくなり立ってしまう水泳学習での自分を見つめ、「ぎりぎりまで息を吐いてそれから吸う」を意識し取り組んだところクロールで２５ｍを泳ぎ切れたこと、書写の時間に先生のアドバイスを聞き、手本をよく見て書いたら難しい漢字もきれいに書けたことをふりかえりました。また、２学期は委員会で自分からやることを探し、できることは全部取り組みたいことも述べました。

古代ギリシャ語には「時」を表す言葉が２つあります。クロノス（Kronos）とカイロス（Kairos）です。クロノスとは時計で測ることのできる過去から未来へと流れる「時間」、カイロスとは心が感じる質的に特別な「瞬間」を指します。

学校では、自分で目標を定め自分の立ち位置をモニターしながら目標に近づいていく力を養ったり失敗を学びに変え挫折を乗り越える力（レジリエンス）を養ったり

するために、PDCAサイクル（Plan：計画、Do：実行、Check：評価、Action：改善）に「ふりかえり」を位置付けることが多いです。しかし、ふりかえりにはそうした取り組みと似て非なる意義として、次のようなものもあると考えます。

・二度と戻らぬ時間の流れの中、忘れ去られる出来事をいたわり、温め、粗末にしないこと。

こう考えれば、ふりかえりは「カイロスを刻みクロノスの地平を広げる」と言えるでしょう。さらに、

・次々誕生する出来事に心を寄せ価値や可能性を見い出すことを通して、自分の生活を自分で彩り、自分の生活に自分で潤いを与えること。

と考えれば、「日常生活に秘められた『多様な幸福』を自ら感受する」とも言えるでしょう。

ＡＳさんもＵＭさんも、自分と向き合い、自分の言葉でしっかりと発表することができました。堂々とした姿に、頼もしさを感じました。



二学期始業式　校長の話

今日（８月２６日）から二学期です。学校生活が再開しました。２学期は１２月２４日までの８１日間です。一日一日、充実できるといいです。

夏休み中の学校は寂しかったですね。静まりかえった廊下で、ふと『無為』（むい）という長岡輝美氏の書に立ち止まりました。書が放つ無音の響きを感じ、呼び止められたといった方がぴったりするかもしれません。

「無為」。この言葉の意味をはっきりと捉えていない私は、図書室にある小学生向けの辞書を引いてみました。「なにもせずぶらぶらしていること、無為に日々をおくる」と書いてありました。言葉を見ながら、そうであるならこの作品が放つ圧倒的な迫力とは似つかわしくないと感じたので、隣に並ぶ最も厚い辞書も引いてみ



ました。「自然のままで作為することのないこと、因縁によって造作されないもの、生住異滅の四相の転変のないこと」等と書いてありました。けれども今度はちょっと難しい。わかったようなわからないような、もやもやした気持ちになりました。

数日後、書店で「無為」についてふれた本と出合いました。そこには「無為という言葉は無為無策、無為に過ごすのように何もしないでいるとの意味でよく使われるが、老子で使われる無為は一切何もしないということではなく作為的なことは行わないということ」との説明が載っていました。「老子」とは中国の思想書の１つ、無為と自然を合わせ「無為自然」という熟語でその思想の特色が示されているとのこと。さらにインターネットでも調べてみると、「意図的な計らいや人工的な手を加えないこと」「人間の欲望や小賢しい知恵による作為を捨てて生きる尊さ」「因果関係や人間の迷いによってつくられる『有為』の世界を調節し、永遠かつ絶対の真理の境地」等の説明がありました。

そうか……。書が放つ無音の響きの正体、つまり、書に込められたメッセージを私はようやく受け止めることができたと思いました。

それは、ありのまま、あるがままであること。加えて、この世で最も見えない存在が自分であることを考えれば、自分で自分を理解するため、ふりかえりながら生活することです。

「無為」について理解を深めただけではありません。「上善若水」（上善は水のごとし）や「知者不言　言者不知」（知る者は言わず　言う者は知らず）等の考えにもふれ学びを広げることもできました。考えてみると、もやもやした気持ちをもち続けていたことが、作品に潜む老子の考えにたどり着く源になったのでしょう。

わたしたちの身近なところには、学びの種がたくさんあります。けれども、自分で気を留め働きかけない限り、それらの方から近づいてくることはありません。これを「学びの掟（おきて）」と言ってもよいかもしれません。学びの種を自ら見つけ、つまみ、育ててみると、根をはり、枝はぐんぐん伸び、葉は生い茂ります。

幸い、本校の廊下には数々の芸術作品が展示されています。博物館であり美術館でもある、恵まれた環境です。みなさんも気になる作品に足を止めてみましょう。そこからきっと、世界がぐんと広がりますから。

ところで、玄関を入ってすぐのホールには、『無心』という真木強行氏による次の画も展示されています。



『無為』という書、『無心』という画。

んっ、２つの芸術作品が校内に展示されていることは単なる偶然ではないかもしれない。

新たなもやもやが湧いてきました。

日	曜	１０月の予定	給食	下校時刻					
				１年	２年	３年	４年	５年	６年
1	木	創立記念日　　運動会全校練習（１校時）	○	１４:４０			１５:２５		
2	金	運動会前日準備（１４：５０～）	○	１４:４０			１５:２５		
3	土	運動会（行３）	×	１２:００					
4	日								
5	月	振替休業日（１０月３日分）							
6	火	３・４年りんご葉摘み（９：３５～１０：５５） 運動会予備日	○	１４:４０			１５:２５		
7	水	３・４年ヤマメ放流（１０：２５～１１：２５） 職員会議	○	１４:４０					
8	木	６年合同修学旅行	○	１４:４０			４・５年１５:２５		
9	金	６年合同修学旅行	○	１４:４０			４・５年１５:２５ ６年は後日連絡		
10	土								
11	日								
12	月	スポーツの日							
13	火		○	１４:４０		１５:２５			
14	水	複式学級指導基礎講座（５校時）	○	１４:４０					
15	木		○	１４:４０			１５:２５		
16	金	３・４年りんご収穫（９：３５～１０：５５）	○	１４:００		１４:４０			
17	土	海の子山の子交流事業②	―	１４:４０					
18	日								
19	月	振替休業日（１０月１７日分）							
20	火		○	１４:４０		１５:２５			
21	水	校長講話　委員会活動　源次兵衛さん活動（５校時） １・２年秋さがし（２校時）	○	１４:４０			１５:２５		
22	木	管内教育長訪問	○	１４:４０			１５:２５		
23	金	歯科検診　　指導部会	○	１４:００		１４:４０			
24	土								
25	日								
26	月	特別支援教育研修会	○	１４:４０					
27	火	１・２年里芋掘り（１校時）	○	１４:４０		１５:２５			
28	水	芋煮会事前指導　　委員会活動 ３・４年里芋洗い（１校時）　芋持ち帰り	○	１４:４０			１５:２５		
29	木	町芸術文化祭リハーサル（９：４０～１０：２５）	○	１４:４０			１５:２５		
30	金	芋煮会	芋	１４:４０					
31	土								